

【GIGA×指導の工夫・改善】 予習でつまずきの予想と把握、評価基準の設定、指導案（略案）

本校では、研究の軸に「対話」と「評価基準の設定」「系統性」の3つを置いている。特に身につけさせたい資質・能力と目指す児童像（評価基準）を明確化することで、授業展開や予想される児童のつまずき、支援の在り方や有効なICT活用について考え、授業づくりを行っている。

指導案・指導案略案を作成する際、右のように「評価基準A・B・C」と「つまずきに対する手立て」を明記し、支援のタイミングや方法、内容について予め焦点化した。授業研究会では、これらのことを中心に事前・事後検討会を行い、日々の授業づくりに生かすことができた。

特に評価基準AやBに到達したり、Cの子をBに押し上げたりするためには、児童に委ねる時間の確保と対話の質の向上が課題であった。課題解決のために、学習支援ソフトやGoogleスライド、ドキュメント等で予習を行い、つまずきや課題を事前に把握したうえで授業を展開することで、委ねる時間の確保とつまずきへの支援を行うことが有効であった。

つまずきに対する支援では、共有ドライブや教育支援ソフトを活用し、いつでも他者参照したり、ヒントカードを確認できるようにしたりした。また、教員が直接つまずいている児童に支援をするだけでなく、児童と児童をつなぐ橋渡しの役割を意識的に行うことで、児童の理解と人間関係を深めることができた。

評価の観点	児童の表現例
A Bを満たし、基準量が後に出る問題を日常から想起し、作成することができる。	・チョコを4こ買います。1こ5円のチョコを買うと何円になりますか。(物を変える。) ・あめを3こ買います。1こ8円のあめを買うと何円になりますか。(数字を変える。)
B 問題文から基準量が何なのかをとらえ、何のいくつ分かを明らかにして、正しく立式することができる。また、図と式を関連付けて説明することができる。	・ $5 \times 4 = 20$ 20円 1はここに5こ入っていて、その4はここだから、 5×4 になります。 ●●●●● ●●●●● ●●●●● ●●●●●
C 問題文から基準量が見つけれず、正しく立式できない。	・ $4 \times 5 = 20$ 20円 ・ $5 \times 4 = 20$ 20円 理由は分からない。
つまずきに対する手立て	①基準量が分からない場合、1つ分の数は？と問うことで、基準量を捉えやすくする。 ②説明の仕方が分からない場合、練習問題で示した例をもとに考えるよう促す。 ③図が分からない場合、ブロックを用いて基準量を確認し、図を想起させる。

指導案評価基準抜粋

10/30のよしゅう(教21頁)

教科書の問題

わけ(ことば・図)

() $3 \times 5 = 15$ 15こ
 a) $5 \times 3 = 15$ 15こ
 () どちらでもよい

予習実態把握と対話時間の確保

教科:算数科(5年)
2024年 11月 11日

単元名
見方・考え方を深めよう(2)「遊園地へGo-1」(数林編)

単元目標
文章題において、問題場面を図に表して同じものに着目して解法を考えたことを通して、相違や置換の考え方を使って解くことができるようにするとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。

本時のねらい
・2つの場面の数量関係を図に表し、共通部分に着目して、相違の考え方を使って問題を解くことができる。(思考・判断・表現)

評価基準	児童の表現例
【A:できるだけ多くの子どもに期待する程度】 数量の関係を図に表して差しい引いて問題を解決し、適応題についても図に表して解決することができる。	Bに追加で、下の適応題も。 ○ 1400円 ●●●●● ●●●●● ●●●●● ●●●●● 800円 1400-800=600 600÷3=200 800-200×2=400 400÷4=100 答え 200円 200こ、100こ
【B:(原則)全員に到達させる程度】 数量の関係を図に表し、同じところと違うところに着目して、差しい引いて問題を解決することができる。	① 1200円 ○●●●●●●●● ●●●●●● 1000円 $1200-1000 \div 2 = 100$ 答え 100円 ② 340円 小1小1次 小1小1次 440円 $440-340=100$ $(340-100) \div 3 = 80$ 答え 200円 小80円

【C:(原則)Bに到達しない程度】 数量の関係を図に表し、同じところと違うところに着目するが、式に結びつけることができない。	① 1200円 ○●●●●●●●● ●●●●●● 1000円 ② 340円 小1小1次 小1小1次 440円
【つまずきに対する手立て】	○同じものに着目できるように、同じものを丸で囲って対応させ、違う部分が明瞭になるかに目を向けられるようにする。 ○図を手紙かきりにしながら、式を確認していく。

ICT活用について

- 自己解決の様子をノート又は学習支援ソフトで把握し、学級全体の共有場面の趣味的指名につなげる。
- ペアで自分の考えを伝えるときに画面を示しながら説明する。

指導案略案評価基準抜粋